

## はなみずき

(病院だより)

2007年1月1日

発行

山梨大学  
医学部附属病院

## 新しい年を迎えるにあたって

病院長 星 和彦



新年おめでとうございます。

本年も皆様にとってすばらしい年になりますようご祈念申し上げます。

職員の皆様にはこの一年間献身的なご協力をいただき、おかげさまで附属病院としては大過なく、また過去に例をみないほどの経営実績を上げることができました。心より御礼を申し上げます。

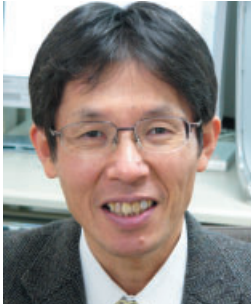
しかし、世の中の情勢は決して安穏ではありません。特に、われわれに関連の深い教育と医療の領域は厳しい状況におかれています。病院に課せられていた2%の経営改善係数(病院収入の2%ずつ交付金が毎年減額される)は幸いにも一昨年クリアすることができましたが、大学全体に義務づけられている1%の効率化係数(国から一括して渡される運営費交付金は毎年1%ずつ減額される)と5%の人件費削減(5年間の人件費削減目標)の附属病院への影響は無視できません。そして何よりも病院にとっての大きな痛手は昨年春のマイナス3.16%の診療報酬改定です。本院が昨年良好な経営実績を残せたのは、これらのマイナス要因を稼働率で補ったからに外なりません。あらためて皆様のご努力に感謝申し上げます。

医療人としての責務、使命感、あるいは自己犠牲、自助努力で守り、育てているわれわれの医療現場を何故これほどまでに虐めるのか、国の施策は到底理解できません。特定機能病院は一般病院の模範にならねばならず、中でも“医療の安全”を徹底するよう指導されています。“医療の安全”には人手と経費が不可欠です。人件費を抑制して厳しい医療安全を要求する、これを「矛盾」といわなくて何と表現したらよいか、是非教えてくださいたいと思います。日々増大する患者のニーズ・権利意識、そして高度化・専門化する医療水準の中で、診療に必要となるわれわれの労力、時間、緊張度は増加する一方です。このような状況に対するわが国の医療体制の整備は明らかに遅れており、医療の崩壊が危惧されています。手遅れにならないよう国をあげての対策が望まれます。

周囲の厳しい状況の中、附属病院としては皆さんができる限り安心して快適に働けるよう、職場環境の改善に取り組んで参りました。病棟の耐震化工事、外来・病棟の改築・改造、トイレの全面ウォッシュレット化、老朽医療機器の更新を漸次進めるとともに、病院玄関前にコーヒョップを誘致し、念願の保育園設置も実現の運びとなりました。“スターボックス”は2月14日、“どんぐり保育園”は4月1日オープンの予定です。勿論、待遇改善、医療従事者の増員、設備の充実、等々、さらに実現させなければならない課題の多いことは重々承知しておりますし、病院の再開発すなわち新病棟の建設も視野に入れていきます。皆様のご協力をいただきながら、附属病院を一層発展させていきます。本年もどうかよろしくお祈り申し上げます。

## 科長就任にあたって

麻酔科科長 松川 隆



平成18年11月1日付で麻酔科科長を拝命致しました。簡単に経歴を述べます。山梨市に生まれ、日川高校、群馬大学医学部を卒業し、山梨医科大学脳外科に入局しました。3年間在籍しましたが手のアレルギーで脳外科医を続けることが出来ず、麻酔科に移りました。以後、麻酔科、手術部助手を経て、平成4年11月から手術部講師（副部長）、助教授として手術部の運営、安全管理等に従事してきました。

手術部副部長の間に大学、病院を取り巻く状況は激変しました。大学は法人化され、収支面での独立が強く求められ、平均在院日数の短縮により病床稼働率を上げる等経営面の大いなる努力が払われました。その中の有効な対策の一つに手術症例数の増加が挙げられ、各診療科の先生方、看護師の皆さん、コ・メディカル、事務系の方々のご協力でご協力で着実に増加しました。特に今年度の手術件数は開院以来過去最高となることは間違いのない状況となっています。

大学附属病院における麻酔科の使命は1. 臨床と2. 教育とをしっかりと行うことです。1の臨床においては、①安全性と②経済性の双方を常に念頭に置いておく必要があります。①の安全性については、長年に亘って安全管理室員を務めてきた経験が大いに生きると考えています。また、②の経済性については、やはり十数年の手術部副部長としての経験が役立つと確信しています。2の教育についてですが、研修医（初期、後期）ならびに学生教育に全力で取り組みます。

麻酔科医は手術室内の麻酔管理を行うのみならず“周術期管理医”という考え方の中で、術前診察・相談、術後の管理（救急・集中治療部の先生方との緊密な連携）を遂行する必要があります。ペインクリニック診療においても外来の充実および各診療科の要望により適切に対応出来る体制を確立していきます。緩和ケアチームへの全面的なバックアップも引き続き継続し、手術室外の麻酔管理（小児科心臓カテーテル検査等）にも万全の体制で臨みます。

教室員一同全力を尽くす所存でございますので、病院の皆様方の温かいご指導とご協力を、どうぞ宜しくお願い致します。

## 退職のあいさつ

前事務部長 藤原 定夫



平成18年12月末日をもって退職いたしました。平成17年4月1日付で事務部長として赴任してから、1年と9ヶ月の短い期間でありましたが、“今やらずして何時やる”の気概で職務に対応して参りましたが、何分とも微力ゆえ、皆様には種々のご迷惑をお掛けいたしましたこと、お詫びいたしますとともに、ご指導ご協力と励ましのお言葉、心から深く感謝申し上げます。

大阪大学に新採用された折には考えも及ばない変革の連続、常にチャレンジ精神と“今やらずして何時やる”の想いを胸に、数多くの大学にお世話になりました。私は全ての大学で附属病院を担当し、病院創設準備担当も2大学で経験しました。長い公務員生活を経験してきた私ですが、本院は病院の理念が示すとおり、「一人ひとりが満足できる病院」の実現に向け職員一丸となって精励し、全国的にも高く評価されている大学病院だと思います。このような大学病院の一員であったことを誇りとし感謝しております。

最後になりますが、本院のより一層の発展を祈念し、退職のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

（藤原前事務部長は昭和57年4月1日より平成5年3月31日まで山梨医科大学に勤務されておりました。）

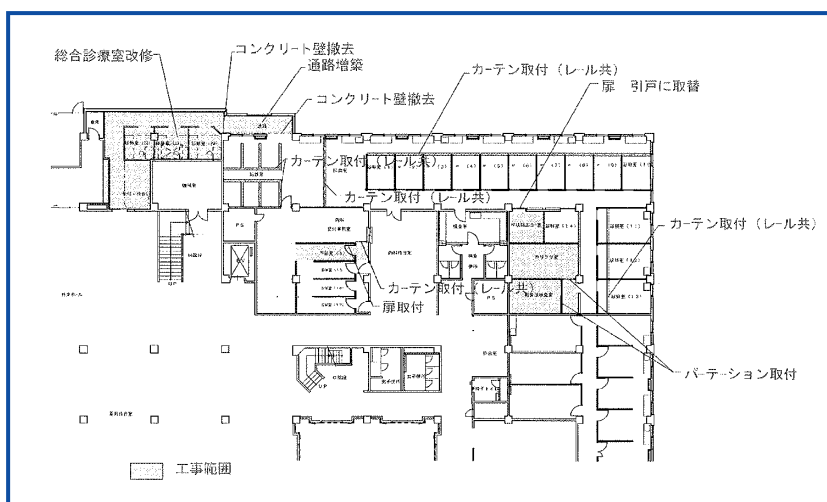
## 内科外来の診察室増設および改修工事について

副病院長、第3内科科長 小林 哲 郎

内科各診療科の外来通院患者数は、病院・診療所連携の充実や血液内科の創設等により、年々増え続けており、また、学生の外来での教育に必要なスペースも不足し、これに伴い診療室の整備と増室が重要な課題となっていました。処置室、診察室などへの動線も考え、有効なスペースの活用を考えた結果、現在の総合診察室のあるスペースに、三つの診察室を作る改修案が作成されました。この診察室への通路は、内科処置室からいったん外に出る設定が必要となりました。

関係各部署のご協力により、上記の改修工事と超音波検査室などの整備工事が、1月より3月末まで行われます。これにより、内科外来での診察業務が迅速になることで、より効果的な運用が可能となり、患者さんへのサービスの向上が期待されます。新たな診察室の運用に関しては、外来医長会や内科科長会などで話し合うこととなっています。

改修工事中は、代替の診察室はなく各診療科間で調整を行いますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 平成18年度防災トリアージ訓練報告

防災・災害対策室長 松田 兼一

皆さんこんにちは、防災・災害対策室の松田です。昨年9月30日に行いました防災トリアージ訓練についてご報告致します。参加者は医師60名、看護師28名、コ・メディカル14名、事務36名、日本赤十字、学生を含むボランティア26名、近隣住民を含む見学者18名の計182名でした。ご参加頂いた皆様本当にご苦労様でした。本年2月に行ったトリアージ訓練はリアリティーをテーマにしましたが、今回の訓練は理想型を追求することをテーマに行いました。本部をはじめ各ゾーンの医師、看護師、事務それぞれにあらかじめリーダーを一人決めておき、事前打ち合わせをしました。前回よりも傷病者役が多く、参加者が少なかったにもかかわらず、非常にスムーズにトリアージおよび傷病者に対する治療を行うことができました。この経験から、実際に災害が発生しても今回参加された方が各ゾーンに一人でもいらっしゃれば、その方がリーダーとなり今回の訓練を思い出しつつ行動していただくことで、かなりうまくいくのではないかと自負しております。次回のトリアージ訓練は春に予定しています。病院職員のみならず、医学部キャンパス内の職員やご家族、学生の方々にもお声をかけたいと思います。ふるってご参加下さい。

また防災・災害対策室では現在防災・災害対策マニュアルの改訂と防災・災害グッズの検討を行っています。災害はいつおこるかわかりませんが、できるだけ早く準備万端整えたいと考えております。皆様の防災・災害に対するご意見をお聞かせ願えれば幸いです。



救急車内でのトリアージ



模擬患者来院



治療の様子



反省会にも多数の参加がありました

## パス大会が開催されます

クリニカルパス推進委員会 委員長 東 田 耕 輔



黒部市民病院  
今田先生

平成18年10月26日、第2回目のクリニカルパス講演会が開催されました。今回は、黒部市民病院から今田先生を講師としてお招きし、「クリニカルパスの必要性とその効果—オールインワンパス—」と題し、クリニカルパスの初歩から次世代パスの運用までご講演いただきました。

今回の参加者は、142名と前回は大幅に上回り、若手の参加も多く見られました。アンケートの結果、講演会の前には関心がなかった人(18人)もいましたが、その方々の多くが終了後には「関心が深まった」にチェックされていました。また、参加された多くの方々が、黒部市民病院での次世代型電子カルテを中心としたシステムの紹介に強い関心を持って見入っていました。

現在、当病院に採用されている医療情報システム・電子カルテ上では、残念ながらクリニカルパスを動かすことができません。現在の医療を取り巻く環境は大変厳しく、さらに進む病院のIT化に加えて、患者さんへの治療や指導、EBMがある範囲内での医療の標準化、学生の教育、Risk Reduction、さらに臨床研究等を現在の人員数で行うことを考えると、機能の充実したクリニカルパスシステムの導入は必須ではないかと考えます。当委員会では、次世代の電子カルテ上(平成21年1月稼働予定)で、多数の医師や看護師、コ・メディカルの方々が使用したくなるような(①入院時にそのパスを選ぶだけで、数日間の全てのオーダーが入力される。②オーダーの変更や入院日程の変更にも容易に対応できる。③電子温度板にも、パスシステムを通して検査値や記録が簡単に取り込める。というような)ユーティリティーの高いクリニカルパスシステムの導入をめざすべきと考えています。

現在クリニカルパス推進委員会では、次期医療情報システムでの更新に向け、希望・要望を取りまとめております。「パスを使えば短時間で多くのことが指示でき、かつ患者さんの病態や術後の合併症の発見のための観察項目や対応が病棟内で共有できるような」クリニカルパスシステムが導入できれば、現在の繁雑な業務を少しでも軽減できるのではないかと考えております。

なお、平成19年1月26日(金)には、18時30分から臨床講義棟小講堂において、クリニカルパス大会が開催されます。現在院内において活用されているパスについて、眼科、整形外科、小児科から紹介させていただきます。初めてのパス大会ですので、パス自体もまだ余りブラッシュアップされておりませんが、ここをスタートに院内でのクリニカルパスの活用と活性化を計りたいと考えております。多くの皆様方のご参加をお待ち申し上げております。

## 『学生版医療スタッフマニュアル』

病院機能改善検討委員会 委員長 佐 藤 公

最近、実習生のマナーに関する苦情が患者さんから寄せられました。当委員会では対策を検討し、病院実習を行う学生を対象とした病院実習に関する小冊子の作成を検討しています。この中では医療スタッフとしてのマナーに加えて、守秘義務、個人情報の取り扱いや院内感染予防策について解説し、『学生版医療スタッフマニュアル』への発展の試みでもあります。検討の過程では、概念論に陥りやすい言葉や活字などの言語情報が、個々の行動をどれほど変えられるかという議論がありました。確かに、成人の行動の変容に求められ、最も効果的なのは目標となる者の存在とも言われます。この意味では、学生への教育は診療や看護などの専門教育だけでなく、学生より少しだけ先を歩いている私たち一人ひとり職員の普段の取組みを示し、伝えることも大切な教育の一つといえます。外来や病棟、診療科など実習中のさまざまな場面をつうじて、常に学生を意識し、病院全体でマナーを醸成してゆけたらと考えています。どうぞご協力をお願い申し上げます。

前回出題致しました問題の模擬回答を發表します。

あるファーストフード店で、一人の女性がハンバーガーを15個注文した時の店員の対応です。

「お客様、店内でお召上がりですか？」ではあまりにも皮肉ととられますので、「ありがとうございます。袋も15枚お入れしておきましょうか？」だったそうです。

では、今回も、異業種について考えてみましょう。

元気をもらえるディズニーランド。ここのスタッフの一人に、あるとき、こんな質問をしてみました。

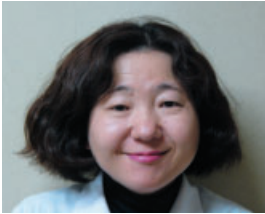
「お客様へのサービスが隅々まで行き渡っているディズニーランドですが、顧客サービス担当のスタッフの方々は、さぞかし優秀で立派なんでしょうね。いったい何人くらいいるんですか？」

さて、なんて答えてくれたのでしょうか？



## 痩せない。野菜不足。そして歩かない！！

栄養管理部 小林 貴子



2000年に策定された「健康日本21」は10年後の達成を目指し、適正体重や運動習慣、食生活など9分野70項目について数値目標を定めました。その中間実績が昨年の11月に厚生労働省から公表されました。

### 「健康日本21」の主な数値目標と達成度（一部抜粋）

項目	スタート時	中間実績値	目標値	改善○悪化×
20～60代男性の肥満	23.4%	29.0%	15%以下	×
野菜の摂取量(1日当たり)	292g	267g	350g以上	×
日常生活の歩数(男性)	8202歩	7532歩	9200歩以上	×
同(女性)	7282歩	6446歩	8300歩以上	×

昨今、メタボリック症候群への関心とも相まって、食事や運動といった生活習慣の是正は誰しもが関心が高いところです。インターネットを「ダイエット」で検索すると、今、流行のきゃべつダイエットに始まり、チョコレートダイエット、りんごダイエット、クッキーダイエットなど枚挙に暇がありません。挙げ句の果てには「美味しい。らくちんダイエット」などがあります。言い換えると、いかに減量することが難しいかを物語っています。24時間気を抜くことが出来ない特殊な職場環境のなか「運動する」ことは、なかなか至難の技・・・身をもって痛感。



この中間報告から、「肥るも痩せるも食事しだい」の語彙をもう一度考える機会としたいものです。



## 院内学級の音楽会をたずねて

総務課 小野 道子



飯田先生

昨年11月1日、院内学級の子どもたちと先生方、それに長年に亘りご協力いただいているバイオリニストの飯田先生とふたばベルクワイア（ハンドベルの会）の方々が一緒に、手作りの音楽会を開催してくれました。

舞台上に立った子どもたちは、キーボード、木琴、鉄琴の見事な演奏を披露してくれました。客席には、院内学級に通う子どもたちのご家族や就学前の患者さん、入院中のお友達が来ていて、1曲終わるごとに大きな拍手が沸き起こっていました。アンコールの声もかかる、とても素晴らしい音楽会でした。

舞台上立つ子どもたちは、その日の朝の体の具合で、音楽会に参加出来るか出来ないかが決まるそうです。そんな状況にある子どもたちの演奏に、観客席は優しい気持ちにつつまれ、聴いている私たちも元気をいっぱい与えられました。

院内学級の皆さん、素敵な時間をありがとうございました。

次回の音楽会の開催をもし耳にされましたら、是非聴きに行かれることをお勧めします。自然と笑顔のこぼれる一日になること請け合いです。



ふたばベルクワイアの皆さん



素晴らしい演奏に病院長からプレゼントがありました。

## 安全管理研修会への参加をお待ちしています

安全管理室 GRM 岩下直美

安全管理室では、安全意識の向上、安全文化の醸成を目的として、安全に関する研修会を開催しています。

今年度の安全管理重点目標は1.「患者とともに作る医療安全」2.「新インシデントレポートシステムの浸透と活用」の2項目です。目標達成に向け今年度は特別講演会2回、事例検討会4回、安全活動報告会2回を企画しました。今後、1月23日(火)に第4回事例検討会、2月20日(火)に安全活動報告会を予定しています。皆様には年2回以上の参加をお願いしています。まだ、2回参加を達成していない方は、必ず参加して下さい。なお、参加できない方は安全管理室に今年度実施した研修会のビデオテープがありますので、ご覧いただき、アンケートを提出していただくと、参加1回とみなされます。その他の研修として全病院職員を対象としたAED勉強会を実施しています。第4回を1月26日(金)に予定していますので、ご参加下さい。

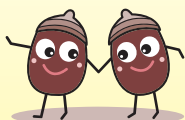
## 掲 示 板

### 名前は「どんぐり保育園」です！！

前回はなみずきで保育園名を募集し、多数??の候補名をいただきました。どうもありがとうございます。保育園設置場所にどんぐりの木があることから、保育園児を木の芽にたとえ、将来芽が出て大きな木に育ってほしいという思いを込め、「どんぐり保育園」と命名しました。名前を考えて頂いた方には何かいいことが起こりそうな気がします。



入園者については10月に入園の希望調書を提出して頂き、15人の方に入園許可書を通じたところです。また、11月から園舎の工事も始まりました。4月の開所が待ち遠しくてたまらない今日この頃です。



### St. Valentine's Day Openへ

スターバックスコーヒーの工事が平成19年2月14日オープンに向けて始まりました。工事中は騒音等ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。営業時間は、年中無休、平日は午前7時から午後7時まで、土曜・日曜・祝日等は午前7時から午後6時までの予定です。



### 面会者の病院駐車場無料時間を延長しました

駐車料金の無料時間については、時間延長の要望を受けていたところであり、この度(昨年10月より)10分間延長し、40分間無料といたしました。

なお、40分を超えた場合の料金は1時間100円です。また、今までどおり外来患者さん、付添の方に係る駐車場料金は無料です。



### 病棟耐震補強工事

本院は東海地震防災対策強化地域内にあると共に、直近には曾根丘陵断層と呼ばれる活断層群があり、大地震発生(M7クラス)の可能性が指摘されています。

病棟の基本的耐震性能は確保されているものの、さらに万全を期すための工事です。

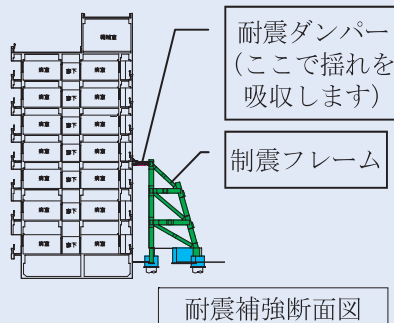
### 病棟トイレ全面改修工事

病棟の全てのトイレが洋式のシャワー便座になります。また、トイレブースを広げて、点滴棒を持ったままでも使用しやすいトイレにします。

### 東病棟3階改修工事

東病棟3階産科病室の改修を行っています。これは個室を増やすことと、さらに使用しやすいトイレ、浴室に改修する工事です。

工事期間中はご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願い申し上げます。



ご意見、投稿をお待ちしています。(ynoda@yamanashi.ac.jp 経営企画室内線2126)